

# 提 案 概 要

実施期日	7月28日(火)【午前】
部 会 名	小学校 生活科部会

## 1 提案テーマ 『表現することで、思いや気付きの質を高める学習活動』

2 単元(題材) きせつと ともだち

3 学年 第1学年

## 4 平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

②一人ひとりの児童自身の気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための授業展開の工夫・改善

## 5 学習指導要領との関連

第2章 第5節 生活 第2 各学年の目標及び内容 [第1学年及び第2学年] 2 内容

(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

## 6 実践に向けての課題意識

気付きを絵や粘土作品にして可視化したり、自分なりの言葉に変換したりして表現することは、子どもたちがその物事を認識しているということである。気付きを上手く表現できるということは、自己表現によって、対象と関わってきた自分との対話ができたとにもなる。自己表現を認められ、理解してもらえることは、子どもたちの自己肯定感を育むことにもなるだろう。一人ひとりの気付きの質を高める手立てを工夫し、さらに児童自身の良い気付きへと繋げながら、自立への基礎を養わせたい。

## 7 実践の概要

自然に触れる活動をした後は、「貼り付ける」「絵を描く」「粘土作品にする」などの表現活動を行うと同時に、「聞き書き」を行い、子どもたちが直接体験から得た思いや気付きを、担任と一緒に言葉にし、記録してきた。自分の思いや気付きを言葉にすることによって、無自覚だったことが自覚された気付きへと高まり、さらに他者と伝え合い、多様な気付きを交流することによって、気付きの幅を広げることができた。

## 8 成果と課題

成果○無自覚なことから自覚された気付きへと高めることができた。

○学習対象の見方(気付きの幅)を広げることができた。

○自然に目を向けて生活している様子が見られるようになった。

課題○生活科で書く活動を増やすことによって生じる、国語科の時間の確保

○子どもたちが興味をもって参加できる交流活動のもち方

## 9 予想される協議の柱

○生活科と他教科との関連的な指導のアイデアとその評価

○カリキュラム編成について

○気付きを高めるための手立て